

(様式 1-3)

南三陸町復興交付金事業計画 復興交付金事業等個票

平成 24 年 6 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	66	事業名	県立学校防災施設・設備等整備事業	事業番号	◆D-1-1-1
交付団体	宮城県		事業実施主体 (直接/間接)	宮城県 (直接)	
総交付対象事業費	24,504 (千円)		全体事業費	24,504 (千円)	
事業概要					
<ul style="list-style-type: none">・ 今回の震災において、志津川高校が避難所や地域の防災拠点として活用されたことを踏まえ、学校施設として防災機能及び地域防災拠点機能を高めるため、備蓄倉庫、耐震性貯水槽、外部トイレ、発電機等の整備を行い、南三陸町の復興の土台を支える住民の安全・安心の確保に資するもの。・ なお、南三陸町においては、今回の震災を受け地域防災計画の見直しを行う予定であるが、見直し後の同計画においても、同校は今回の整備予定の施設規模に見合った収容人員の避難所として位置づけられる予定であり、また、同町の他の避難所等の防災施設と、機能的・地域的重複は無い。・ 想定している収容人員は 1000 人であり、小森、廻館、旭ヶ丘、田尻沢、保呂毛、中瀬町の各地区からの避難を見込んでいる。・ 同町と県教育委員会、志津川高校において、同校を避難所として利用する事について、「基本協定書」「覚書」「運営マニュアル」等を整備する予定であり、今回整備する施設・備品等についてもそれらの協定等に基づき、適切に管理を行う。 ※宮城県震災復興計画 6 分野別の復興の方向性 (7) 防災・安全・安心 5 教育施設における地域防災拠点機能の強化「防災拠点としての学校づくりモデル事業」					
当面の事業概要					
<p><平成 24 年度> 平成 24 年度の単年度事業である。</p> <p><平成 25 年度></p>					
東日本大震災の被害との関係					
<ul style="list-style-type: none">・ 東日本大震災では、志津川高校においては、校舎や体育館等の建物の一部が損壊し、近隣宅地接する自転車置き場が流失するなどの被害を受けた・ 高台にある学校は孤立したが、避難所に指定されている志津川高校には、多くの住民 (3 月 11 日当日に避難者の名簿に掲載された人数だけでも 485 人) が避難し、長期間に渡り避難所や地域の防災拠点として活用された。・ また、避難所以外にも、地域に残された住民に対する物資配給の拠点に活用されるなど、あらためて当校の学校施設が本来的に持つインフラ (設備・人員) や公共性に対する地域のニーズが高いことが認識されたが、その一方で施設・設備の不備や物資の不足等が指摘され防災機能の充実が必要とされている。					
関連する災害復旧事業の概要					
災害復旧事業費 13,744 千円 (校舎・体育館・第 2 体育館・生徒会館・クラブハウス・自転車置場等 (工作物)) 上記以外事業費 (復興交付金事業分) ・ 工事費 防災施設 1 箇所 16,409 千円 (備蓄倉庫、耐震性貯水槽、外部トイレ 諸経費込み) ・ 設計費 921 千円 ・ 工事監理費 741 千円 ・ 事務費 100 千円 計 18,171 千円 ・ 需用費、備品費 6,333 千円 (発電機・投光機・ストーブ・パネル等)					
※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。					
関連する基幹事業					
事業番号	D-1-1				
事業名	道路事業 (市街地相互の接続道路) (国) 398 号 (志津川工区)				
交付団体	宮城県				
基幹事業との関連性					
<ul style="list-style-type: none">・ 基幹事業において、災害時の緊急輸送・搬送等を確実に支える交通網を再構築するため、志津川地区 (被災市街地復興土地区画整理事業地) - 西地区 (防災集団移転) - 志津川 IC を接続する (国) 398 号を整備するものであるが、当該道路は、本効果促進事業により整備予定の志津川高校に、志津川地区 (被災市街地復興土地区画整理事業地) 方面から避難する際の避難道路となり、また、避難の期間が長期に及んだ場合に、志津川 IC から物資を当該避難所に搬送する上で不可欠な道路である。・ よって、緊急時の避難先となる避難所の機能強化を行うことにより、基幹事業による緊急輸送・搬送のための交通網の整備によりもたらされる「南三陸町の住民等の安全の確保」という効果を促進することとなる。					

